

第7回勤務医フォーラム

「金沢市の救急医療体制を検証する」

〔受け入れ施設から〕
夜間救急診療所の立場から

わたなべ小児科医院
渡部礼二

いつも病院の先生方には連携病院として2次、3次待機をお願いし御協力ありがとうございます。後方病院があるからこそ1次診療が成り立つ訳で、病院の先生方にはお世話になりっぱなしで感謝しております。今日、私は大手町の夜間急病診療所の現況と、その問題点についてお話したいと思います。また、日曜当番医の実際についても少し触れたいと思います。

金沢市の夜間急病診療所 PM 7:00 ~ PM 11:00

内科(77) :1名 () : 協力医 (医療機関) 数
小児科(24、週1回大学) :1名

金沢市の休日当番医 AM 9:00 ~ PM 6:00

内科小児科	:4ブロック(23~33)	各1ヶ所
小児科	:全区(28)	1ヶ所
		2ヶ所 (年末、1~2月Flu流行期、GW)
整形外科	:全区(31)	1ヶ所
外科	:2ブロック(18, 22)	各1ヶ所
産婦人科	:全区(22)	1ヶ所
眼科	:全区(22)	1ヶ所
耳鼻咽喉科	:全区(13)	1ヶ所
皮膚泌尿器科	:全区(26)	1ヶ所

- ・ 夜間急病診療所は内科と小児科の二つの診療科を365日午後7時から午後11時まで診療しています。なお、昨年10月までは0時まで診療していました。スライドの()内は出向協力医、及び医療機関数であります。

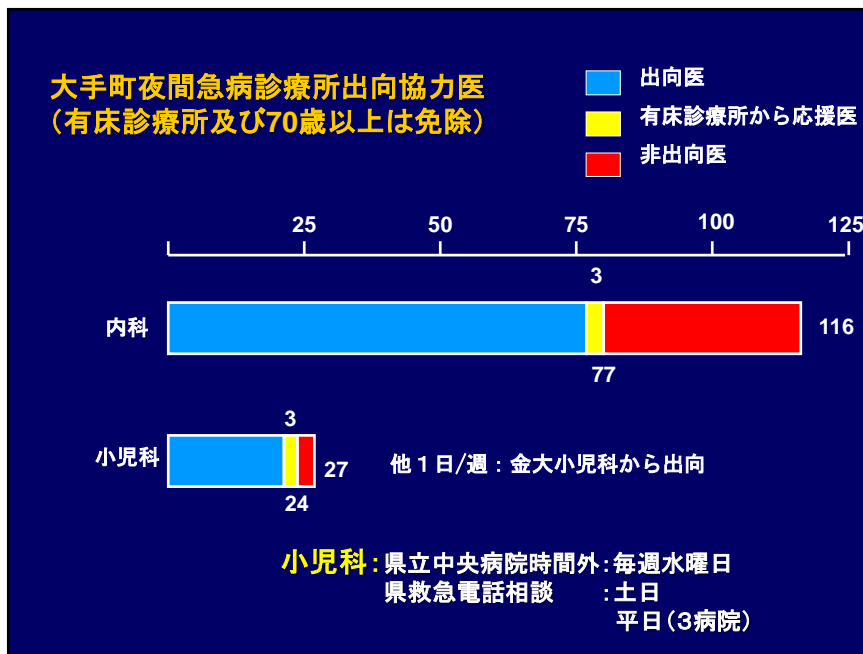
日曜当番医は内科が4本、外科が2本、小児科は通常は1本ですがインフルエンザ流行期、ゴールデンウィーク、年末年始は2本立てています。整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚泌尿器科は夫々1本ずつ立てています。これらは会員の御協力の基で成り立っております。ありがとうございます

大手町夜間診療所・時間外・当番医のバックアップ

() : 協力医療機関数

	平日	日曜日
一次	大手町夜間診療所	当番医
二次	各々1ヶ所以上 / 日 : 内科(13) 小児科(6) 外科(12) 整形外科(9) 脳血管障害(1) 循環器系(1) 全般(1) 1日 / 週 : 皮膚科(2) 1日 / 隔週 : 脳神経外科(1)	各々1ヶ所以上 : 内科(9) 小児科(5) 外科(8)
三次	全科(2)、小児科(1)	

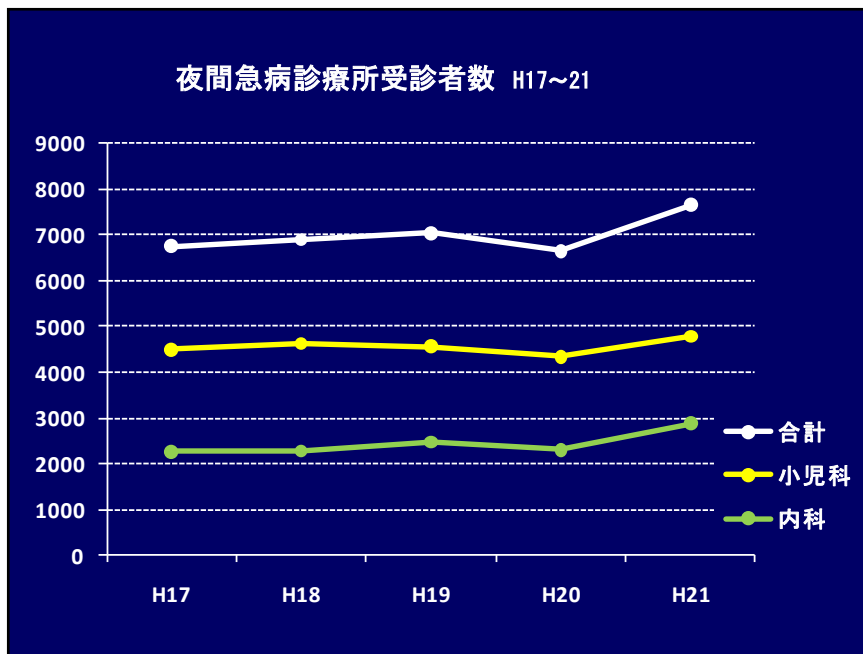
その、日曜当番医や大手町の夜間急病診療所の後方病院は各科、平日時間外二次救急輪番制を組んでお願いしております。小児科以外は金大と県中は3次病院になっています。小児科は日曜、平日とも後方病院が1つないし2つ当てられています。金大は3次になっています。



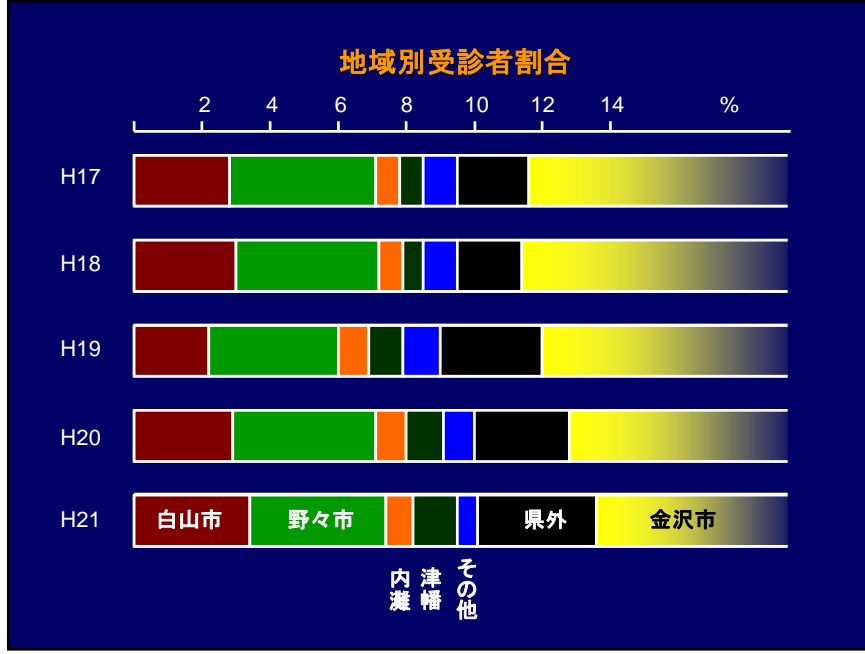
さて、大手町夜間急病診療所の現実であります。

診療所への出向医であります。会員には入会時等に出向の協力をお願いしています。有床診療所の先生は出向は免除されます。また、70歳以上になると申し出で免除されるというシステムになっていますが、実際70歳以上の先生は出向されていません。個々の事情で免除される場合もあります。スライドの如く内科は2/3の先生に御協力を頂いていますが、残りの1/3の先生は出向されていません。有床診療所から3人応援があり、77名で内科は診療所を廻しています。

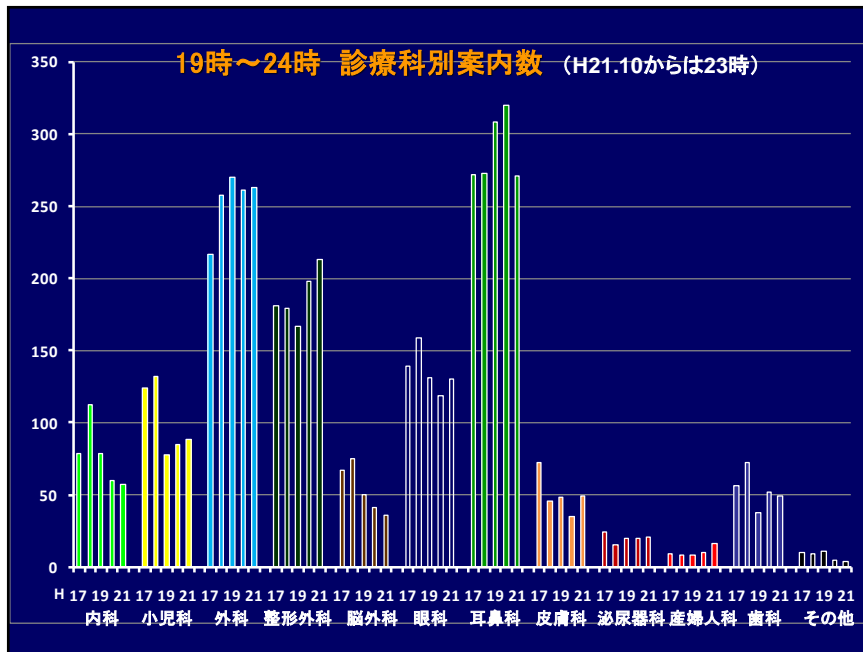
しかし、小児科は該当医師は24名しかいません。その内3人が事情で出向されていませんが、有床診療所から3人応援があり、都合その24名と金大小児科から毎週水曜日の応援でなんとか365日を維持しております。それでも小児科は24名ですから、大手町の夜間急病診療所の出向だけで月1回強あり、他に県中の応援とか電話相談そして休日当番医がありギリギリで廻しているのが現状であります。



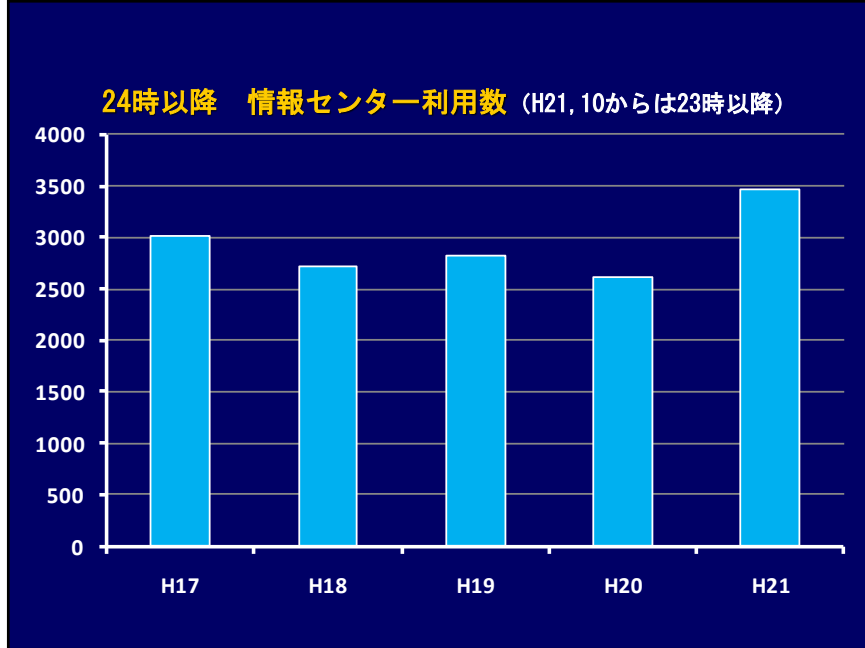
年間の受診者数の5年間の推移です。総数であります。4月から3月の年度でまとめてあります。小児科は内科の約2倍の受診者があります。昨年度は10月から診療終了時間が24時から23時になったのですが、新型インフルエンザの影響か逆に少し増加しています。



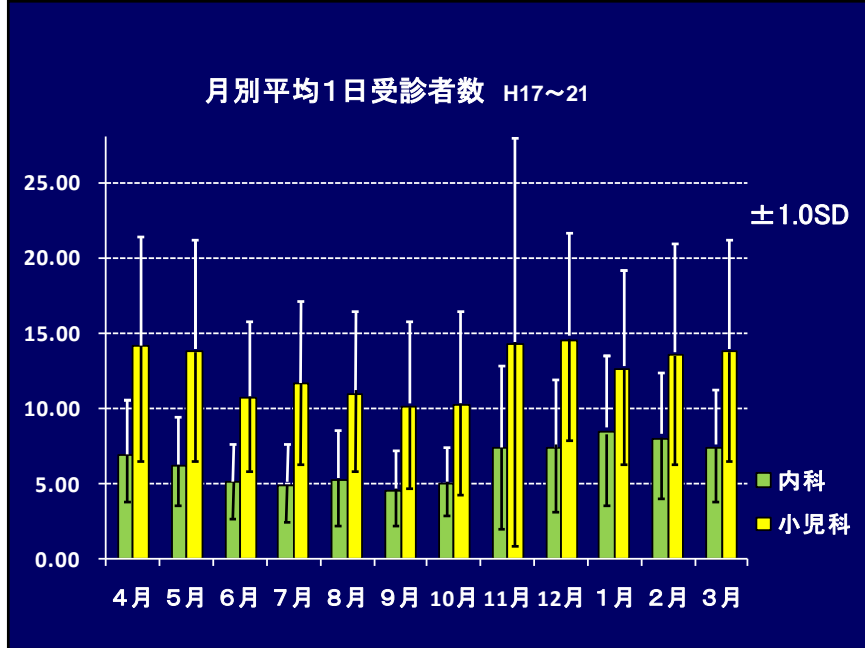
受診者の地域別の割合です。15%弱が金沢市以外からの受診です。金沢市以外からの受診者数が年々少しずつ増加傾向にあります。夜間急病診療所では毎年3000万円近くの赤字が発生し、金沢市から補填されているのですが、他の市町村の負担は今の所はないそうです。



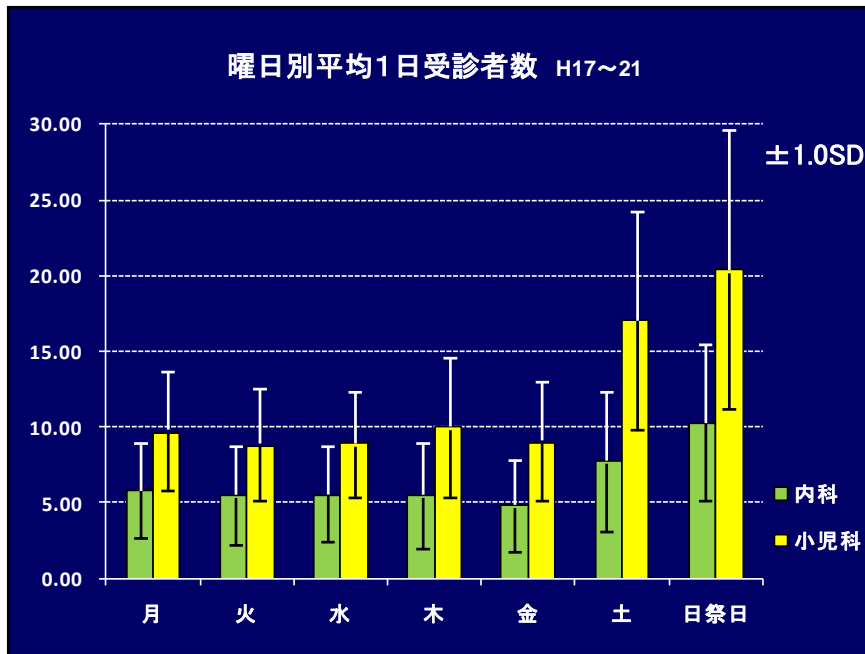
診療時間内にかかってきた診療科別の相談電話の推移です。耳鼻咽喉科、外科、整形外科、眼科が多く合計すると平均1日に20件近くになります。



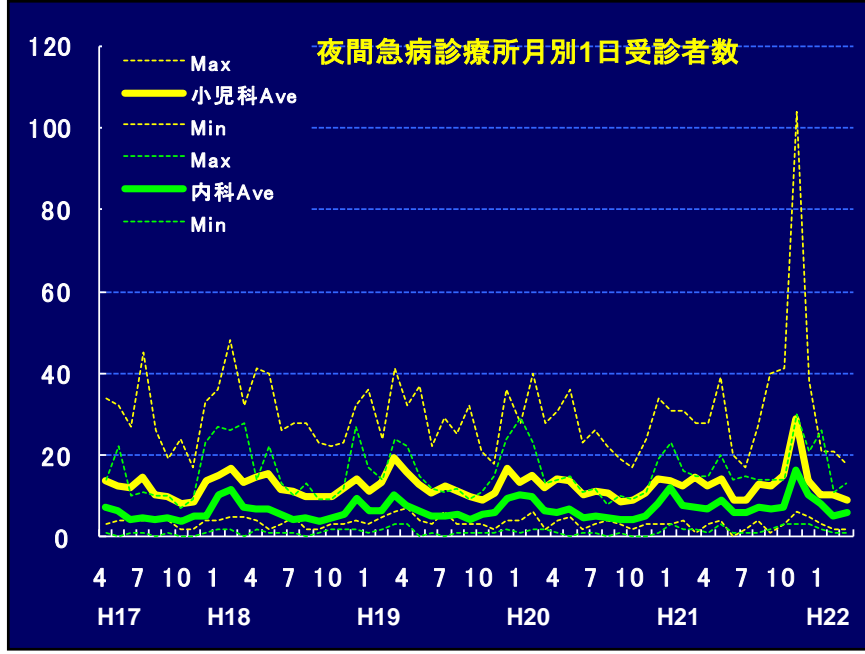
診療時間後の自動応答による案内数です。1日10件弱になります。



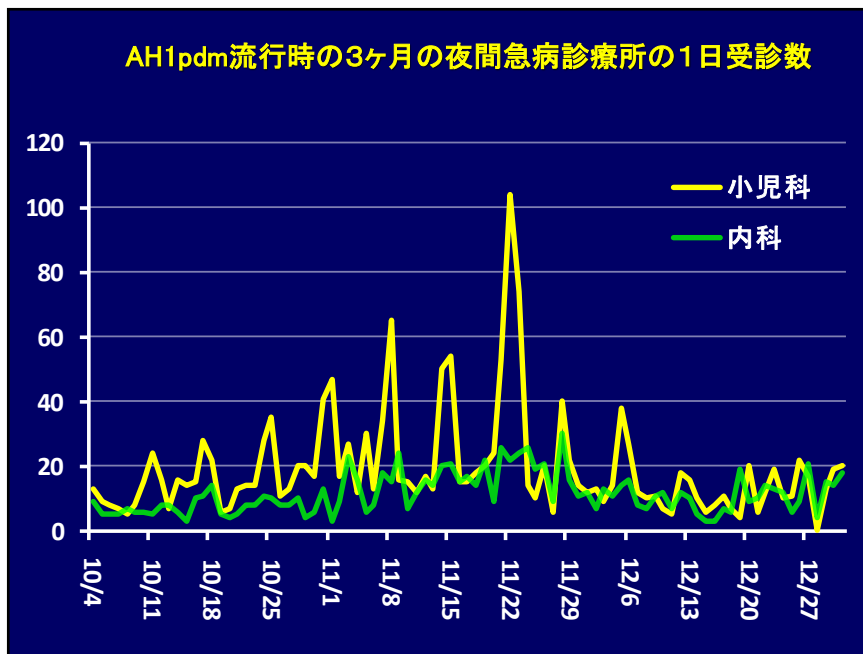
夜間急病診療所での5年間の月別受診者数であります。±1.0SDで表してあります。黄緑は内科、黄色は小児科です。6月から10月は少ない傾向があります。



曜日別受診者数です。内科・小児科共土曜日と休祭日の受診者が増え1.3倍から2倍になります。



ここ5年間の日毎の受診者数でその月の最大、平均、最少受診者数であります。右の方の最大受診者数の大きい山は新型インフルエンザ騒動の時のものです。



その新型インフルエンザ流行時の10月から年末までの実数の推移です。山は総て土曜日、休祭日であります。



夜間診療に殺到する患者
＝22日午後9時半、金沢市内の診療所

当番医に患者殺到

新型インフル 県内病院など分散に苦慮

新型インフルエンザの感染拡大が続く中、なし、病院側は殺到する来院者を分散する対応に追われた。内科・小児科の夜間診療を行う金沢市大手町22日でも待合室はパンク状態、100人待ちの状況が発生する診療所も。駐車場に入りきらない患者が路上に列を

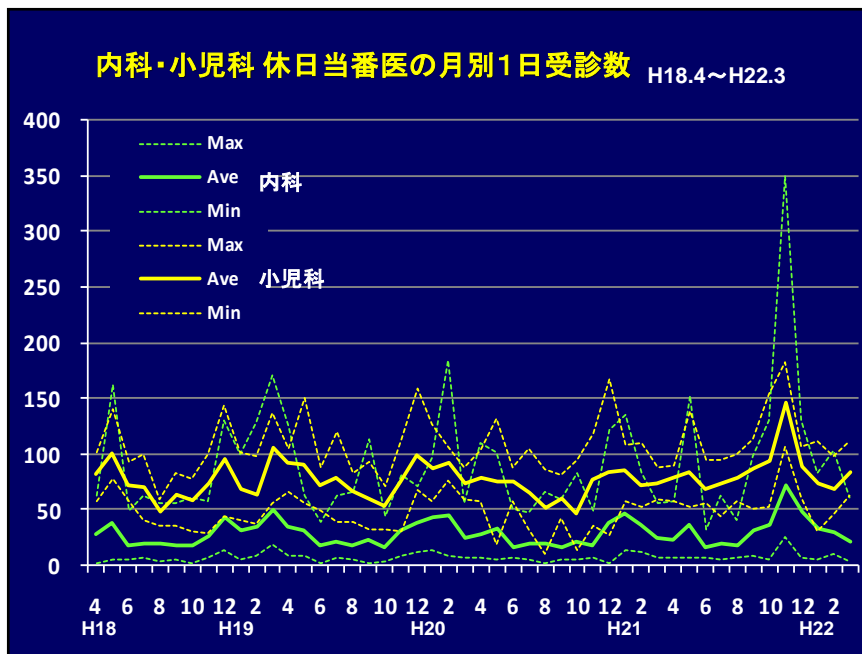
人増やして対応。午後10時半時点で120人の患者を受け付けた。発熱した中学1年生の無職男性(7)は3時間以上、車中で待つた。これだけ流行している状況だから仕方がない」とあきらめの表情を浮かべた。

小松市の南加賀急病センターでは、平年同期比で2倍以上、先週末と比べても1.5倍以上の患者が殺到し、インフルエンザの検査キットも品切れ状態に。「医師、看護師ともオーバーワークだ」とスタッフの疲労を懸念する。

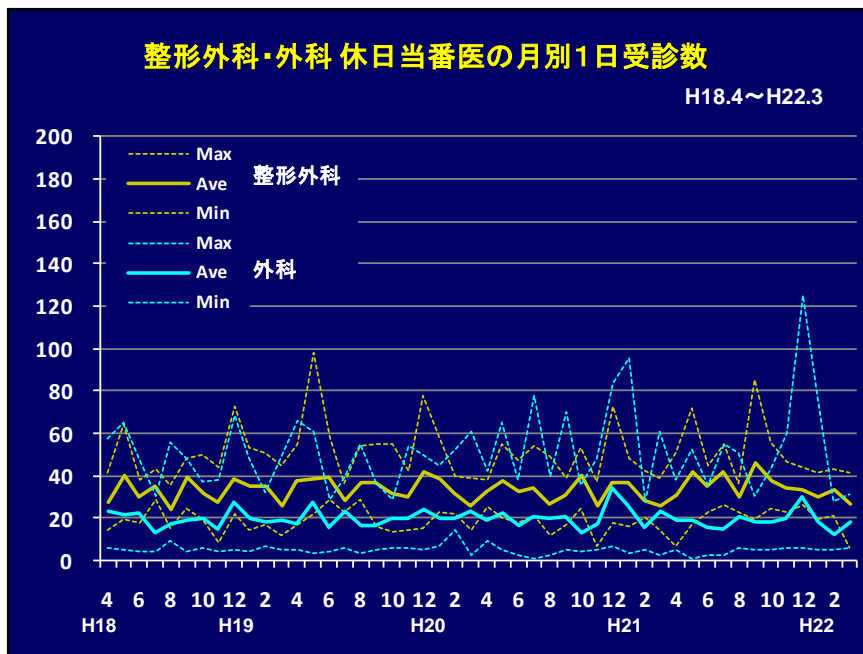
河北都市1市2町の休日当番医を務めた秋山クリニック(内灘町)では、午後9時半までに110人が治療を受けた。診察の順番が近づいた時点で自宅待機している患者に電話連絡を入れるなどの対応を取った。

県内では休診予定だった医療機関が臨時に診療したところもあったという。

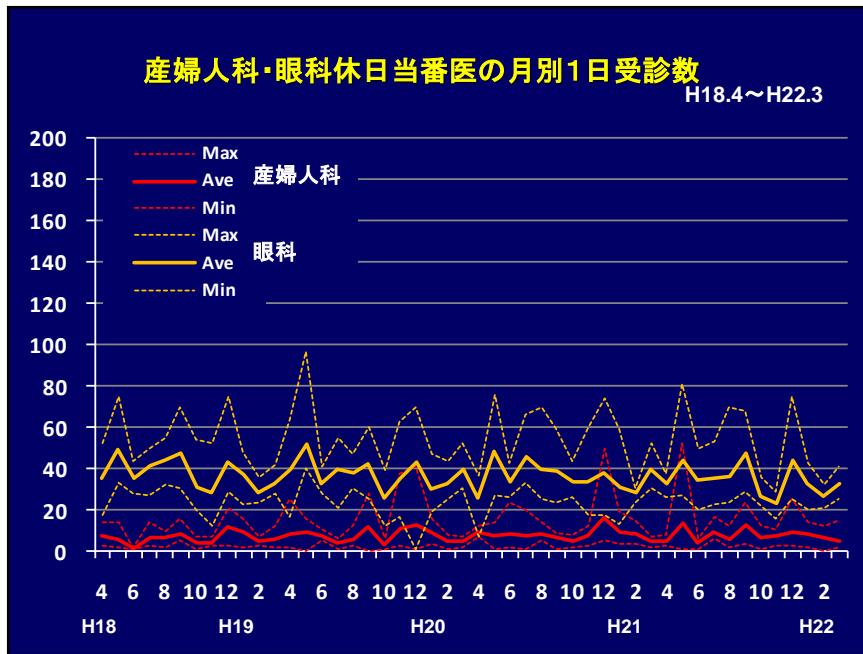
その一番ピークの時の新聞報道です。この時小児科受診者数は104名いました。2人応援に出て小児科3名、内科1名で診療し、大きい児は内科の先生に助けを頂きました。



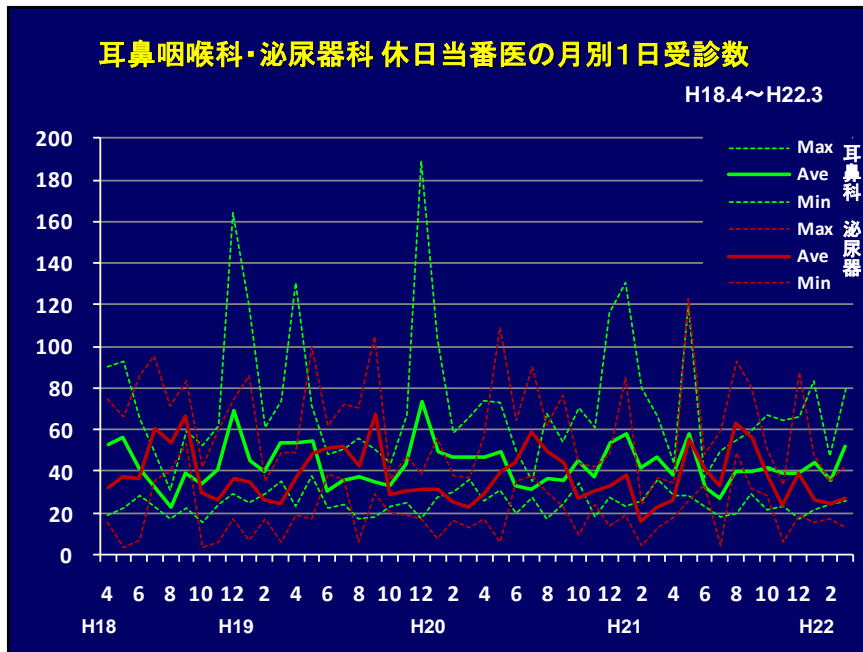
日曜当番医であります。日曜当番医のデータは4年分であります。内科・小児科の1つの診療所ごとの月別の最大、平均、最少受診者数です。小児科は季節関係なく100人の受診者を覚悟しなければなりません。新型インフルエンザの流行期には内科小児科の看板を掲げている内科当番医で病院ですが349人の受診者があり、5人の医師で診療したそうです。一方、内科では最小の受診者で1桁は数多くあり、中には1人のいうのもあります。当番医の地域によっては人件費どころか光熱費にもならない所もあるのが現状です。



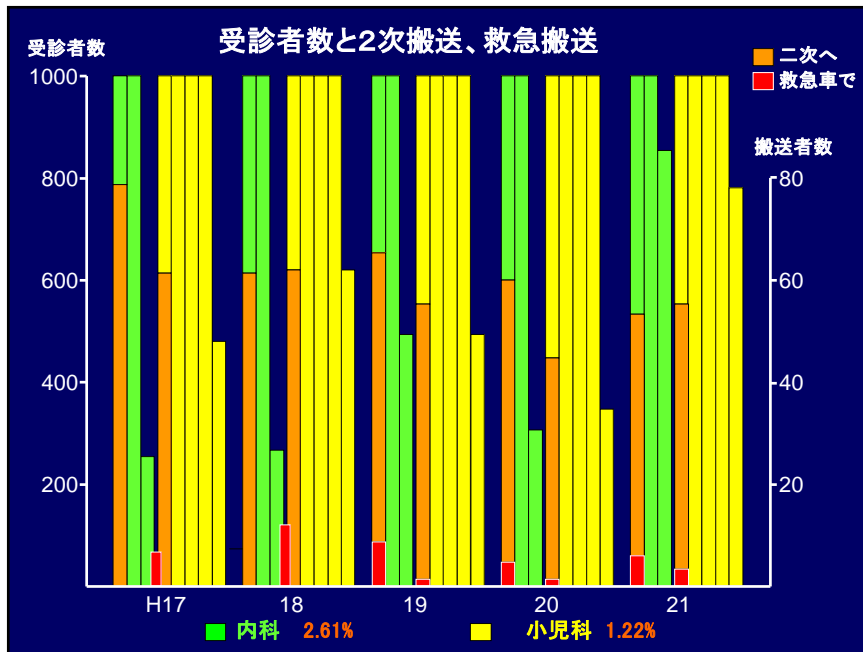
様に整形外科、外科です。先程のスライドとスケールが半分になっています。100人を超える場合もあります。



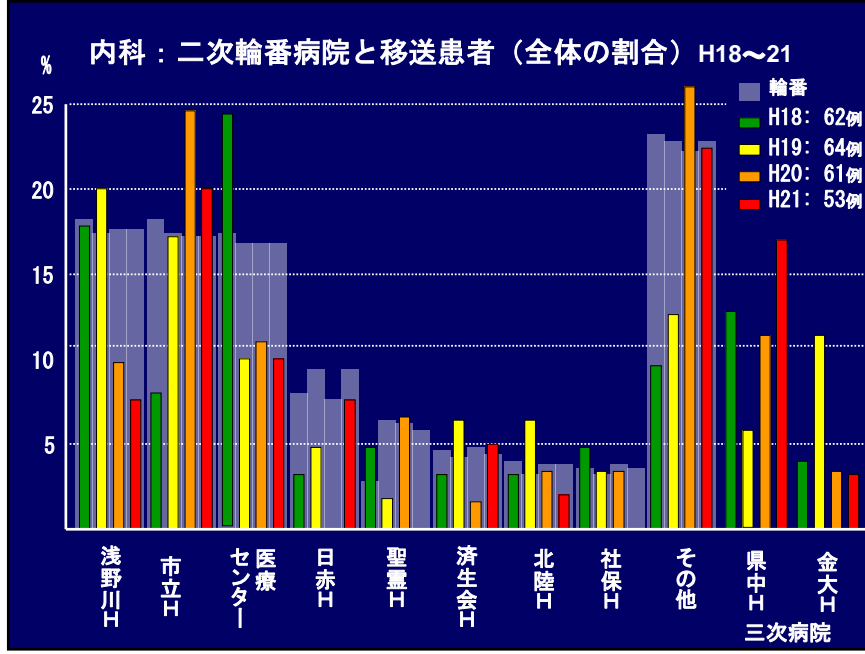
産婦人科・眼科であります。



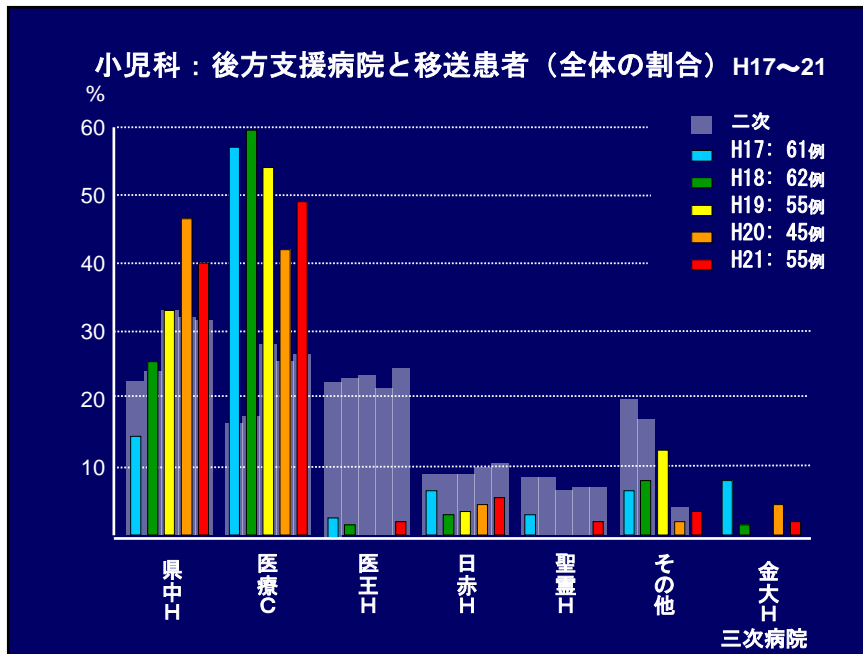
耳鼻咽喉科・皮膚泌尿器科であります。耳鼻科では100人を超え200人近い場合もあります。



大手町の夜間急病診療所に戻ります。受診者数と後方病院への紹介患者数及びその救急車の利用数です。受診者数のスケールが紹介患者数の10倍になっております。内科は黄緑色、小児科は黄色、紹介患者は橙色、救急車使用は赤色で示してあります。H17とH18の救急車利用は総数しか判りませんでした。受診数で、内科は小児科の半分なのですが、後方病院への紹介数は小児科と同じ位か多い位で、救急車の利用も内科の方が多傾向にありました。救急車の利用では小児科は自家用車で連れて来る率が高いという事もあります。後方病院へ紹介する割合は内科の方が多く、ちなみに5年間で平均、内科は受診者数の2.61%、小児科は1.22%が後方病院にお願いしていました。



輪番等での後方病院の割り当て割合とその患者紹介割合であります。灰色のバックが病院の輪番等二次割り当て割合です。スライドは内科ですが、金大と県中は3次病院になっています。ほぼ割り当て割合と紹介割合は同じような傾向にありました。



小児科は金大だけが3次病院になっています。複数の医師がいる県中と医療センターに集中していました。複数の医師がいる医王病院が少ないのは地理的な問題だろうと思っています。

まとめ（夜間急病診療所）

会員の協力と後方待機病院の支援を得て、大過なく運営。

・出向医 内科：出向非協力医が多数いる。

小児科：ほぼ全員の協力を得ている。絶対数が少ない。

当番医、県中外来、電話相談等もあり、負担は限界！

・受診者数：小児科≫内科

患者急増期の受診者数は許容限界（土休祭日）

→かかりつけ医機能の強化、

家庭でのトリアージの必要性、

地域として救急体制の再構築の必要性

・二次医療機関への紹介 内科≫小児科（救急車による搬送も）

・後方待機病院 内科：割合に応じた紹介数（輪番制が機能）

小児科：県立中央病院、医療センターに集中

以上のまとめであります。

夜間急病診療所での小児科は、受診数が多い時期の、土曜日、日曜日は限界にきていると思われます。その為かかりつけ医の強化や家庭でのトリアージの普及が必要と思われます。小児科医の人数はギリギリであり、日曜当番医も含め体制としての見直しが必要であろうと思っています。

内科は小児科の半分の受診数ですが、2次紹介患者の数は同じ位で、内科の方が頻度として重症な人が多いと思われました。

輪番制の後方病院の割り当てに関して、内科はうまく機能している様ですが、小児科の2次は県中と医療センターに集中していました。

以上であります。

なお、データのまとめに医師会事務局の横山さんと金沢総合健康センターの神川さんに御足労をお掛けいたしました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。